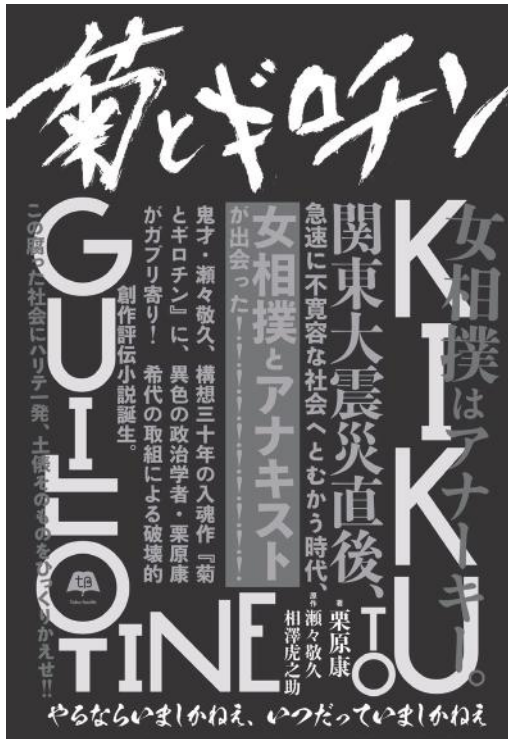


関東大震災直後、急速に不寛容な社会へとむかう時代、女相撲とアナキストが出会った－
鬼才・瀬々敬久、構想三十年の入魂作『菊とギロチン』に、異色の政治学者・栗原康がガブリ寄り！
前代未聞の創作評伝小説誕生!! 瀬々敬久による後日談小説「その後の菊とギロチン」収録



菊とギロチン

2018年
7月上旬

—やるならいませかねえ、いつだっただいませかねえ

著 栗原康 原作 瀬々敬久・相澤虎之助

四六判並製 432 ページ 予価：2,200 円＋税

装丁：吉岡秀典（セブテンパーカウボーイ）ISBN978-4-907053-25-3

「この世のなかに、あらがえないものなんてない。自分の身体を爆弾にかえろ。テメエの脳天をふつとばしてやれ。とりみだしたその身体を生きてやるんだ。」 栗原康

「何かを変えたいと映画を志した若い頃、自分はこういう映画を作りたかったのだと初めて思えた。あとはいざ、世界の風穴へ。そうなれば本望だ。」 瀬々敬久

映画『菊とギロチン』

監督：瀬々敬久

脚本：相澤虎之助・瀬々敬久

出演：木竜麻生 東出昌大 寛一郎 韓英恵

配給：トランスフォーマー

7月7日（土）より

テアトル新宿ほかにて全国順次公開

栗原康 1979年埼玉県生まれ。現在、東北芸術工科大学非常勤講師。専門はアナキズム。著書『大杉栄伝』（夜光社）、『村に火をつけ、白痴になれ：伊藤野枝伝』（岩波書店）、『はたらかないで、たらふく食べたい』（タバックス）、『現代暴力論』（角川新書）、『死してなお踊れ：一遍上人伝』（河出書房新社）など

瀬々敬久 1960年大分県生まれ。京都大学哲学科在学中より映画を自主製作。89年、『課外授業 暴行』で商業映画監督デビュー。『ヘヴンズストーリー』（10）は第61回ベルリン国際映画祭で国際批評家連盟賞とNETPAC賞。『64－ロクヨン－前編/後編』（16）、『8年越しの花嫁』（17）、『友罪』（18）など

FAX : 03-3294-2177

JRC宛

◎取次＝JRC tel 03-5283-2230 fax03-3294-2177

JRCを通して全ての取次への出荷が可能です。

◎返品は無期限で承ります【返品了解者：宮川】

貴店番線印	ご注文数	タバックス	文芸／映画関連書	返 品 条 件 付 き 注 文 扱 い
ご担当 様		<p>菊とギロチン 新刊</p> <p>—やるならいませかねえ、いつだっただいませかねえ</p> <p>著 栗原康 原作 瀬々敬久・相澤虎之助</p> <p>2018年7月上旬 予価 本体 2200円＋税 ISBN978-4-907053-25-3 C0095</p>		
ご担当 様		<p>はたらかないで、たらふく食べたい</p> <p>「生の負債」からの解放宣言 【3刷】</p> <p>著 栗原康</p> <p>2015年4月 定価 本体 1700円＋税 ISBN978-4-907053-08-6 C0095</p>		